

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社若駒
公演団体名	民族芸能アンサンブル若駒

内容
<p>3人の指導者が学校に直接指導に行きます。</p> <p>対象となる学年の児童に、狂言の基本姿勢、発声、歩き方を指導します。</p> <p>その独特な表現方法を用いて「柿とやまぶし」の一場面を、畑主役、山伏役のグループに分かれて稽古します。</p> <p>事後に児童、先生方と役者が、感想を話したり、質問に答えたりします。</p>

タイムスケジュール（標準）				
午前の場合				
到着	打ち合わせ	ワークショップ I	休憩	ワークショップ II
08:20	30分程度	8:50~9:35	9:35~9:45	9:45~10:30
午後の場合				
到着	打ち合わせ	ワークショップ I	休憩	ワークショップ II
13:00	30分程度	13:40~14:25	14:25~14:35	14:35~15:20

派遣者数
3人

学校における事前指導
狂言絵本などを用いて、狂言に対して興味を持たせておく。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社若駒
公演団体名	民族芸能アンサンブル若駒

<b>演目</b>
ずっこけ狂言ばなし だろピカぽん 「柿とやまぶし」 「かみなり」 「みんなでたいけん狂言ワークショップ」 「二人ばかま」

<b>派遣者数</b>
5人

<b>タイムスケジュール（標準）</b>					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
9時	9:00～10:30	13:30～14:50	0分	15:00～16:00	16:30

<b>実施校への協力依頼人員</b>
客席用のパイプ椅子を使用する場合は、到着前又は前日に準備して頂く人数を確保。

## 演目解説

伝統芸能狂言を原作としたこの作品は、翻案演出をする事で、伝統の笑いと現代の笑いがコラボレーションし、初めて狂言にふれる小学生にとっても狂言の魅力が伝わりやすい内容になりました。

また狂言の世界を損なわないよう出演者は狂言の所作を用いて演じます。通常、能舞台に舞台装置はありませんが、想像の手助けとしてシンプルな円形の台を柿の木に見立て、演じる側と観る側、互いの想像力で舞台空間をうめていきますので、無限に想像の世界が広がり想像力が掻き立てられます。

【柿とやまぶし】山伏に柿の実を採られた畑主が「あれはカラスじゃ、猿じゃ」と言ってからかう「柿とやまぶし」。山伏を畑主がからかう様がユーモラスに演じられ、普遍的な笑いが児童の皆さんにも伝わります。

【かみなり】雲を踏み外して落ちてきたかみなり。偶然通りかかった医師が針治療で治すことに。医師とかみなりのやりとりが、コミカルに演じられ針治療の場面では大いに笑いを誘います。

【みんなでたいけん狂言ワークショップ】ワークショップをする事で、狂言への興味がわき演じること、表現することの難しさを知り、また楽しさを体験出来ます。

【二人ばかま】登場人物はたぬきの親子。たぬきの世界で一番になるために、人間の嫁取りにやっ来て来たというオリジナルのストーリー。子ども達は「いずれバレてしまうであろう結末」を想像しながら慌てふためき知恵を出し、なんとかその場を乗り切ろうと奮闘する様に笑いが絶えません。

・円形舞台を取り囲んで観る空間は、とても楽しく対面に座った人の表情、また高学年の鑑賞している様子も見ることが出来るので、低学年の方は独特な舞台空間の使い方などを理解し、鑑賞力、観る力が高められます。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

「柿とやまぶし」の中の畑主と山伏のやりとりを実演して頂きます。

事前のワークショップで、狂言の基本を学び、畑主が「あれはカラスじゃ」と言えば山伏が「コカー」と鳴きまねをし、あれは猿じゃと言えば「キヤキヤ」と鳴き真似をする稽古をします。

公演当日は、各学年(クラス)の代表二人づつに、劇団員の補助の元舞台上で発表して頂きます。

事前ワークショップで得た経験、技術を存分に発揮できるよう、出演者はサポートします。

※事前ワークショップを実施出来なかった場合は、本公演で行う「みんなでたいけん狂言ワークショップ」の中で、全員でワークショップを体験したあとに、事前に選抜した児童に発表の機会を作ります。

事前ワークショップの際には、指導者の見本演技の撮影を許可し、本公演までの練習の材料としていただきます。

## 児童生徒とのふれあい

「みんなでたいけん狂言ワークショップ」では、出演者が鑑賞児童全員に直接狂言の所作を分かりやすく教えます。

堅苦しく教えるのではなく、笑いを交えながら楽しく進めていきます。

また公演終了後は、出演者全員が児童の皆さんを出口付近でお見送りし、その際声を掛けたり、挨拶をしたり等のふれあいをし、会場を出て頂きます。